

## 令和 4 年度 大学塾 第 3 ステージ 開催案内

### 徳川家康と 二英傑(信長・秀吉)の謎と真相

令和 5 年度 NHK 大河ドラマは「どうする家康」です。  
天下泰平の世を築いた徳川家康が主役ですが、その時代は  
新説が相次ぎ、これまで常識とされた通説がドラマティックに  
見直されています。二英傑(信長・秀吉)を含めて、家康の時代  
の歴史がどう塗り替えられようとしているのか。  
新しい視点で、その時代を読み解いていきます。



徳川家康像(狩野探幽画 大阪城天守閣蔵)

講 師：跡部 蛮 氏 歴史研究家/博士(文学) 江戸ぶら会 会長 (足立区在住)  
第 1 回 1/15 信長と秀吉 桶狭間の合戦・本能寺の変・中国大返しの謎と真相  
第 2 回 1/22 徳川氏の素性と一族の歴史、家康の人質時代から長篠の合戦まで  
第 3 回 1/29 地震に救われた家康、天下取りまでの謎と真相  
会 場：足立区生涯学習センター(学びピア 21 内) 5 階 研修室 1

毎回 木曜日 全 3 回 午後 2 時～4 時

## 足立のあらかわ文化祭



「コロナ感染対策」で、自粛されていた「足立のあらかわ文化祭」が 11 月 5・6 日の両日「学びピア 21」4 階 講堂で開催されました。  
講堂では、荒川今昔写真展が開催され昔なつかしい写真の数々が展示され、エントランスでは、荒川の流域で活動する団体の PR コーナーがあり、コーナーの一角に於いて、当会の紹介パネルとチラシのほか、あだち区民大学塾の開催講座の案内「チラシ」の展示、毎月発行している楽学の会の会報誌「楽学ニュース」を来訪者に配布、入会へのご案内をいた

## あだち皆援隊講座 人生 100 年時代



「人生 100 年時代～古き良きあだちを紡ぐ」11 月 26 日 梅田地域学習センターで開催されました。第一部では、足立区在住 北野 大 氏 の基調講演：「足立で育んだ人生観と郷土愛」があり、【足立区の良いところ】住民の間に心や住居のバリエーション「お互い様、おかげさま」に見る下町情緒。足立の古き良き文化を次世代に繋ぐために「じぶん」と「まち」の関わり方を学びました。第 2 部は、「あだちで地域デビューしませんか」趣味や特技を地域に活かして活動している 3 団体から、それぞれ団体の活動内容やその楽しさが伝えられました。

NPO 法人 千住文化普及会 榎原 文夫 氏  
NPO 法人 ベーゴマ普及協会 有澤 次男 氏  
NPO 団体 足立区本木・水辺の会 金子 勝治 氏

本講座を通して、ボランティア活動などの地域活動への関心を啓発。地域デビューを促しました。第 3 部では、それぞれ興味のある団体の方たちとの相談、交流会がおこなわれました。



# 令和4年度 大学塾 第3ステージ 開催報告

## 「印象派」の絵画を楽しむ



10月16・23・30日（日）の3回にわたり、生涯学習センター講堂において開催された。講師は前ブリジストン美術館館長 実践女子大学名誉教授の島田 紀夫先生。受講申込は53名、受講者は47名、延べ124名。

第1回は「モネ 美しい自然の風景画」で、まず「印象派」とは何かの説明された。19世紀のフランスは新古典派のアカデミーの公募展であるサロンが確立されており、サロンに落選となった急進派の画家たちは、歴史画や宗教画よりも、風景や生活を描き、色彩も鮮やかであった。

急進派は1874年～1886年に全8回のグループ展覧会を開催し、それに参加した画家を印象派という。モネは1840年生まれの印象派を代表する画家で、第1回グループ展に「印象、日の出」を出品し、これ以後グループ展出品の画家たちとその作品が印象派と言われている。1880年代は「積み藁」「ポプラ並木」「ルーアン大聖堂」などの連作を残し、1890年代はシヴェルニーに土地を購入し、睡蓮の池を作り、そこに日本の太鼓橋を架け、「睡蓮」の連作を残した。1926年このシヴェルニーで死亡した。

第2回は「ルノワール 日常生活を描いた風俗画」。ルノワールは1841年生まれでモネと並ぶ印象派の代表で、もっぱら風景画を追求したモネに対して、ルノワールは人物を中心とした風俗画を描いた。1861年画家を志し、シャルル・グレルの画塾でモネ・シスレー・バジールと知り合い、1864年にサロンで初入選した。その後落選が続き、モネやピサロと共同出資会社を設立し、1874年第1回印象派展を開催した。愛らしい少女像と裸婦像を多く残し、1919年に死亡した。



第3回は「印象派の女性画家 モリゾとカサット」で、マネに影響を受けたベルト・モリゾとドガと親しかったメリー・カサットの2人が紹介された。モリゾは印象派随一の女流画家。1841年生まれで1868年マネに出会い、絵画を学びながら彼のモデルを多く務めた師弟関係であった。女性特有の感性で描いた母子像や画家の娘を描いた作品には、男性には見られない繊細さと穏健さが見受けられる。1895年死亡。

カサットは1844年生まれで印象派を代表するアメリカ出身の女流画家。日常生活の身近な情景や人物を独自の視点で描いた。1877年ドガと知り合い印象派展に4度出品した。その後米仏伊西や中東などで作品を制作し、ニューヨークで個展を開催した。1926年死亡。



受講者の声：印象派の作品は好きですが、一番好きなのはモリゾなので今回参加しました。女性としての視点が優しくて大好きです。・印象派の絵画（特にルノワール）は好きですが勝手に観るだけだったので解説付きでたくさん観れて楽しい講座でした。・沢山の絵の映像が観れて良かったです。特にモネとルノワール絵画が同じ場所の風景を並べて観れたのが良かったです。この時代の画材（絵の具）の事が知りたかったです。・マネについてなぜ歴史の教科書が曖昧な扱いをしていたのか判って、良かったと感じております。島田講師の口調が心地よく、安心していられたので、日頃の緊張がほぐれました。（糸井史郎）



# 令和4年度 大学塾 第3ステージ 開催報告

## 生誕150年「樋口一葉」の 生涯・旧居跡・作品

11月4・11・18日（金）の3回にわたり開催された。申込みは26名。受講者は26名、第1回23名、第2回18名、第3回22名、累計63名であった。

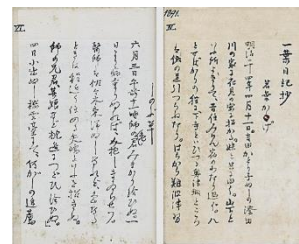


第1回は生涯学習センター研修室4において文京ふるさと歴史館友の会の渡辺 征夫氏によって、「樋口一葉 24歳7か月の生涯」として、明治5年の樋口一葉の誕生から明治29年までの24歳7か月の生涯が紹介された。4～9歳の経済的にも家庭的にも恵まれた桜木の宿の時代。その後、11歳で青海小学校卒業、明治19年に歌塾「萩の舎」弟子入り、明治22年に父・則儀の病没、この間幾度となく住居を移りつつ、18～21歳には本郷菊坂に居住し、明治24年に半井桃水に会い、その後龍泉寺・本郷丸山福山町に転居し、最後の奇跡の14か月に小説11作品を発表し、病に倒れた

第2回は渡辺先生と台東区観光ボランティアの堀越直子さんによる現地学習で、文教ふるさと歴史館に集合し、菊坂一葉旧居跡・旧伊勢屋質店・法真寺桜木の宿跡・丸山福山町の樋口一葉終焉の地などを見学した。伊勢屋質店は跡見学園が管理しているが、講座企画時は金土日の3日間公開となっていたが、現在は不定期になっており、金曜日開催にしたものの残念ながら入館できなかった。



第3回は生涯学習センター第4研修室に戻り、森鷗外記念会常任理事の倉本 幸弘氏により、『「たけくらべ」を読むー森鷗外との関わりにふれながら』として、一葉の文学・作品論が解説された。冒頭、森鷗外・幸田露伴・斎藤緑雨の「三人冗語」で「この作者は、まことに獲易からざる才女なるかな」と絶賛している様子が紹介された。次に歌物語といわれる伊勢物語の「筒井筒」に「たけ・くらべ」とあり、教養の高い一葉はそれを踏まえたタイトルであることが説明された。



受講者の言葉。(第1回) 渡辺先生のお話はとても楽しくあっという間に時間がたってしまいました。(第2回) 菊坂へは一度行ってみたいと思いながら、機会が全くなく、今回の講座で出かけられてよかった。2回目の一葉ゆかりの場所を訪ねての勉強はとても良かったです。天候にも恵まれてタイムスリップの2時間でした。大学塾で初めての現地研修。専門の先生の案内で回ることができ、少しハードでしたが充実した貴重な体験でした。史跡めぐりで改めて感動した。(第3回) 倉本先生のお話、とても良かったです。ぜひまた先生のお話が伺いたいです。倉本先生の朗読は心地よく、当時の様子が目に浮かぶような気がしました。高校生の時、課題で読まれたときは面白いと思えなかったが、一度読んでみたいと思いました。(1～3回) 樋口一葉の短い人生を知り、生まれた時代が違えばもっと長生きできたのではないかと気の毒に思う。一葉に興味があったので、台東区の記念館にも行ってみたいです。新聞社のカルチャー教育の料金は特に疑問なく払っていましたが、区の講座料金(大学塾)は(低料金で)本当にありがたいです。楽しかったです。自分なりの一葉像がより身近になりました。今後、この講座のあれこれを楽しく広げることが出来そうです。

最後に一葉忌は11月23日(水・勤労感謝の日)で現地学習で立ち寄った本郷の法真寺で開催される。生誕150年・11月開催でタイミング良い開催であった。

(糸井史郎)

## 性翁寺住職に聞く

### 「足立姫」伝説と地域社会

11月8・15・22日(火)の3回にわたり開催された。応募者は21名。参加者は21名。累計55名であった。第1回の会場は生涯学習センター研修室4 講師は性翁寺・住職の野口 竜栄氏。性翁寺に伝わる足立姫と六阿弥陀伝説について説明された。



配布資料は性翁寺に残る足立姫及び六阿弥陀関連資料で以下の通り。  
「六阿弥陀研究」塚田芳雄・榎本忠司(昭和54年8月~55年3月)  
「六阿弥陀と熊野信仰」庄司千賀  
京都 安祥院パンフレット  
東京新聞(平成5年3月16日)  
大日本名所図會 東京近郊名所図會(明治43年)  
四季遊覧 江戸年中行事(年代不明)  
東都近郊図(天保元年)  
興楽寺蔵板 武州江戸六阿弥陀巡拝之図(博愛館・明治44年)

六阿弥陀伝説の概要をブックレット足立風土記③より引用する。

「昔、足立庄司宮城宰相という名家の娘・足立姫が、豊島左衛門尉清光という豪家に嫁ぎました。しかし、姫は引き出物が粗末とそしりを受け、里帰りの際に、12人の侍女たちとともに、荒川(現在の墨田川)に身を投げて命を絶ってしまいました。父・宮城宰相は、悲しみの余り、諸国の霊場巡りに出発しました。紀伊国熊野権現で1本の霊木を得て、それを熊野灘に流すと、やがて国元の熊野木という所に流れ着きました。折しも諸国行脚中の行基が通りかかり、宮城宰相が霊木のことを話すと、行基は六体の阿弥陀仏を彫刻し、余り木からもう一体造りました。これらの阿弥陀仏は後に、六阿弥陀として近隣の寺院にまつられ、女人成仏の阿弥陀として崇められたといわれています。」この木余如来が性翁寺の本尊である。

「足立姫」の参考資料として「足立百の語り伝え」(足立区教育委員会)より引用する。

聖武天皇の御代(724~748)足立郡にその長者で、足立庄司という人が住んでいました。この長者は、日ごろ何不自由なく過ごしていましたが、ただ1つ子供に恵まれなかったので寂しく暮らしておりました。そこで、紀州の熊野権現に、子宝が授かりますようにと熱心に祈願していました。そのかいあってか、数年後に玉のような女の子が授かりました。小躍りして喜んだ長者は、この子に“足立姫”と名づけ、姫よ、姫よと、それは大事に育てました。姫はすくすくと、しかも美しく育っていきました。やがて、成人した姫は、その美しさを望まれて、隣の郡の豊島の長者である、豊島左衛門尉のところへ嫁ぎました。

ところが、嫁いで間もなく、嫁入り道具が粗末で見劣りがすると、姑になじられました。その場はじっと我慢しましたが、その後も、何かにつけて辛くあたられ我慢しきれなくなったので、数人の侍女を連れて里帰りすることになりました。その途中のことです。年をとった父母のことや、これから先の自分のことなどを考えると、どうしたらよいかかわからず、思いあまった姫は、沼田川に身を投じてしまいました。これをお付きの侍女達も、われもわれもと入水し、全員が帰らぬ客となってしまいました。この悲報に接した足立の長者は、沼田川のそこそこを探しましたが、侍女達の遺体以外には、姫の遺体を見つけることはできませんでした。足立の長者は、このできごとに嘆き悲しみ、姫と侍女の菩提を葬うために出家し、諸国の霊場を参拝する旅にでました。その道すがら、姫の出生にゆかりのある熊野権現に立ち寄り、その神殿に参籠して姫と侍女の冥福を祈願しました。そのとき、夢の中に熊野権現が現れて「零木を授けるからそれで仏像をつくり安置するがよい。そうすれば姫も侍女も成仏するであろう。」と、お告げになりました。夢からさめた長者は、このお告げを信じて、熊野の山をあちこちと訪ね歩いたところ、光り輝く一本の木を見つけることができました。これこそお告げの零木と思った長者は、人々の手を借りてその木を慎重に伐り倒し、「神様のお告げが本当ならば、自分の国に流れ着いてくれるように。」と、心に念じながら熊野の海に投げ入れ、再び諸国参拝の旅に出かけました。

やがて、巡拝の旅を終えて郷里に帰りついた長者は、自分より先に零木が、沼田川に漂着しているのを発見して、熊野権現のご加護に感謝しました。ちょうどそのとき、おりもよく、この地に行基菩薩が訪れてまいりましたので、長者は今まであったことのすべてをお話して、姫たちのために仏像を彫刻してくれるようお願いしました。

〈P5 ページに続く〉



## 性翁寺住職に聞く 「足立姫」伝説と地域社会

〈P4 ページから続く〉

この話を耳を傾けていた菩薩は、姫や侍女達のことを哀れに思っ、長者のたっの願いを聞き入れてくれました。そこで菩薩は、「私が御仏を彫刻し終わるまでは、誰もきてはならない。」と申されて部屋に入り、一夜のうちに六体の阿弥陀仏をおつくりになりました。そのうえ余った木で、阿弥陀仏一体と観音仏一体をおつくりになって長者に授けました。足立の長者は大変喜んで、屋敷の近くに仏堂を建てて、これらの仏像を安置して朝夕の供養を忘れなかったという事です。また、菩薩の仰せに従って、姫が日ごろ愛用していた菩提樹でつくった数珠を、墓所に埋葬したところ、一夜にして菩提樹が生えてきたそうで、今でもこの木が、墓所のそばに“一夜菩提樹”として残っております。

第2回は会場を性翁寺に移して、住職の野口竜栄氏から関連資料および寺内の諸設備や設置品について説明を受けた。性翁寺に保存されている足立姫と六阿弥陀伝説の主な資料は木余如来（東京都指定文化財）・性翁寺縁起・縁起絵・足立姫と宮城宰相の墓・足立姫と宮城宰相の位牌・行基像その他第1回に配布された印刷物の元資料が提示された。



第3回は足立区に残る足立姫・六阿弥陀関連施設8施設のうち5施設の現地学習を行った。見学先は性翁寺・恵明寺（六阿弥陀第2番）・延命院阿弥陀堂跡（恵明寺の阿弥陀仏は延命院阿弥陀堂に設置されていたが明治時代に延命院が恵明寺に合併された）・六阿弥陀伝説熊野木込跡（熊野権現神木漂着地・熊野木橋や熊野木ポンプ場など現在も地名として残る）・宮城氷川神社（宮城宰相屋敷跡・足立姫鎮魂の浅間神社を合祀）の5か所で、時間の制約から浅間淵跡（足立姫入水地）・鹿浜虫切り（行基宿泊地で行基が伝授した全身の灸のツボが伝えられている）・本木熊野神社（地名は木の根元からと伝わる・足立区唯一の熊野神社）には行けなかった。最後に六阿弥陀には関係ないが、近隣の史跡「小台の七庚申」を見学した。



受講者の言葉：まえまえから気になっていた足立姫伝説について、現地でお話を聞けるとは、とてもうれしく思います。伝説のあいまいさも楽しく、江戸時代の人たちの息吹も勝手に感じられていい経験になりました。・大学の頃から気になっていた。地域の歴史を知らないことには地域のことを語れない。素晴らしい出会いもできた。参加できたことに感謝いたします。・ご住職のお話を聞くことができ、実際の場所も訪問できとても充実していた。・住まいの青井から遠い地域のことが知れて楽しかった。・地元のことを知れてうれしいです。引き続きこのような行事を続けてください。・学びピア以外での現地学習はとても興味深い内容でした。2回目の性翁寺の住職からのお話がとても面白かった。3回目は周辺の名所めぐりも楽しかった  
(糸井史郎)

## 11月 月例会は「会の活動を考える」をテーマで実施

コロナ感染症の流行に伴い、活動の中止や延期で十分な活動ができない状況が2年以上続きました。現在は感染症対策を行いながら活動を開始していますが、コロナ感染症を機として感染リスクが怖くて外出を控える会員、加齢により体調を崩す会員などが3年間で増えました。活動できるメンバーが減っている中、「楽学の会」には今何が必要なのか、活動は客観的にどうなのかなど、フリートークで意見を出し合いました。

### 【今必要なこと】

1. 新しいメンバーを増やす
  - ・大学塾講座参加者の中で会員になってくれそうな人に声掛けする
  - ・いろんな団体の所に積極的に出向き、知り合いになって声をかける
  - ・会のPRをいろんなところでやる NPO センターを通しての交流など
2. 休んでいるメンバーに活動してもらう
  - ・休眠会員に活動参加への呼びかけの手紙を出す
  - ・コミュニケーションの取れる会員に個別で声掛けする
  - ・講座運営に役割を持ってもらい、ボランティアに巻き込む

### 【楽学の会 自己評価】

1. コロナ禍の中でも大学塾講座数は確保し、感染対策をしながら開催している
  - ・年間 15 講座を守り、今年度は 17 講座実施予定である
  - ・会場が閉鎖にならない限り講座は開催し、事業の責任は果たしている
2. 活動メンバーは減っているが、組織的によくやっている
  - ・少ないメンバーで負担が大きいですが、やりくりしながら助け合っている
  - ・いつも同じメンバーになっているが、とりあえず今のメンバーで頑張っている

参加人数は少なかったですが、全員がお話しされ有意義な時間でした。言いたいことを会の中で自由に言うことはとても大切なことです。今後もこのような機会を作って「楽学の会」が発展していけるようにしていきたいと思います。

そして朗報です。10月、11月と2名の方が入会してくださいました。早速講座ボランティアにも参加してもらい、活動を開始されています。お二人とも即戦力になれる方たちで、大きな力になることと思います。

(ボランティア活動推進部)





# 令和4年11月運営委員会 報告・連絡

## 議 事

### (1) 情報交換

- ・あだちサークルフェア 2022 の展示参加  
10月8日(土)、9日(日)に開催され、ブースに立ち寄っていただき入会されました。  
河野 三男 (カワノ ミツオ) 様
- ・NPO 活動支援センター主催の NPO フェスタの開催について  
12月3日(土)、4日(日)に開催されます。展示のみで3日に参加いたします。

### (2) 月例会開催について

- ・10/21(金) AM10時~13時 足立姫伝説をめぐる街歩き実施。
- ・11月の月例会は11月16日(水) 会員同士の意見交換会を兼ねた懇親会を開催します。
- ・12月の月例会は情報交換会を開催する予定です。

### (3) あだち区民大学塾(検討会議・企画会議)

- |         |         |          |               |                  |
|---------|---------|----------|---------------|------------------|
| 「カブキ」   | 応募者 31名 | 金田 栄一 講師 | 10/5, 12, 19  | 受講者 28名          |
| 「印象派絵画」 | 応募者 53名 | 島田 紀夫 講師 | 10/16, 23, 30 | 受講者 48名          |
| 「樋口一葉」  | 応募者 26名 | 渡邊 征夫 講師 | 11/4, 11, 18  | 11日は現地学習です。      |
| 「足立姫」   | 応募者 19名 | 野口 竜栄 講師 | 11/8, 15, 22  | 15日, 22日は現地学習です。 |

### (4) 受託事業について

- ・ナシ

### (5) 各部局・PTからの報告および提案

- ①学習支援部 提案：作業量軽減のため講座の「しおり」を廃止したい・・・後日検討
- ②ボランティア活動推進部・・・11月の部会：11月9日(水)
- ③事務局・・・11/2 ニュース発送、11/15の事務局会議は中止する。
- ④受託事業グループ
- ⑤広報グループ・・・要望：新HPは「講座開催案内」をメインにして欲しい・・・検討します。

### (6) その他

- ・「あだち皆援隊講座」のご案内 11月26日(土) 13:30~16:00 足立区梅田地域学習センター 3F  
13:30~基調講演「足立で育んだ人生観と郷土愛」講師：秋草学園短期大学学長 北野 大 氏  
14:30~団体紹介「あだちで地域デビューしませんか？」足立区本木・水辺の会 金子勝治 氏
- ・足立のあらかわ文化祭 11月5日(土)、6日(日)開催 「楽学の会」のパネル及び会報誌、展示。



(事務局 部会)



(ボランティア活動推進部 部会)

次回運営委員会 12月5日(月) 14:30から(研4)

## 生涯学習センター 講座情報

### ◎講座名：シリーズ武将と信仰 豊臣秀吉

日 時：1/14(土) 午前10時～正午  
対 象：16歳以上の方  
会 場：5階 研修室1  
受講料：800円  
定 員：60人(事前申込先着順)  
講 師：生駒 哲郎氏(東京大学史料編纂所)  
内 容：戦国武将の華々しい活躍には皆心を驚かされますが、その行動に隠された武将の考えや思いまではなかなか見えてきません。武将の信仰に焦点を充てる事で、それぞれの政への考え方などを学び、新しい視点で歴史を見てみましょう！  
今回は天下統一を果たした秀吉の宗教観や信仰を学び、改めて秀吉という人物像を掘り下げます。

### ◎講座名：歯周病による全身疾患の危険性と予防歯科の大切さを学ぶ

日 時：1/22(日) 午後1時30分～3時  
対 象：小学4年生以上の方(小学生は保護者同伴)  
会 場：5階 研修室1  
受講料：600円 小学生は無料(一律、講座当日にお支払いください)  
定 員：50人(事前申込先着順)  
講 師：井出 壹也氏(井出歯科医院 院長)  
内 容：歯周病菌が心筋梗塞、脳梗塞、誤嚥性肺炎など命に係わる疾患を引き起こす要因となっているのをご存じですか。歯のことをもう一度学び直し、歯ッピーライフをおくりましょう。入れ方、今後の展望について学びます。

お申込みは：電話(03-5813-3730)又は直接窓口  
インターネット [近所 de まなびナビ] で検索  
イベント・講座情報→講座予約システム

### 令和4年11月「月例会」のご案内

日 時：11月16日(水) 午後3時～5時  
場 所：生涯学習センター5階 研修室4  
テーマ：会の活動を考えるフリートーキング

### 令和4年12月「月例会」のご案内

日 時：12月19日(月) 午後5時～  
場 所：生涯学習センター5階 研修室4  
テーマ：忘年会 レストラン「さくら」7階

(詳細は、別途ご案内いたします)  
\*皆様の積極的な参加をお待ちしています。  
(ボランティア活動推進部)

## 楽学インフォメーション ★会合のお知らせ★

- ◎ 運営委員会  
12月5日(月) 午後2時半～4時 研修室4
- ◎ 月例会(情報交換会)  
12月19日(月) 午後5時～7時 7階 「さくら」
- ◎ 学習支援部  
12月19日(月) 午後3時～4時 ワークルーム
- ◎ ボランティア活動推進部  
12月7日(水) 午後2時～4時 ワークルーム
- ◎ 事務局  
12月6日(火) 午後2時～4時 ニュース発送
- ◎ 広報グループ  
メール会議
- ◎ 大学塾講座検討会議  
12月19日(月) 午後4時～5時 研修室4
- ◎ 大学塾講座企画会議  
12月5日(月) 午後1時半～2時半 研修室4
- ◎ 生涯学習センター 休館日  
12月12日(月)

### ★お問い合わせ＆ご意見

- ◎ 「楽学の会」の運営に関するお問合せ  
事務局 江川武男 電話:090-3105-8140  
E-Mail: [takeo-wg@cj9.so-net.ne.jp](mailto:takeo-wg@cj9.so-net.ne.jp)

### 編集後記

#### 持続可能な地域づくりの必要性

グローバルとローカルな視点の両面から、持続可能な地域づくりが期待されている。

グローバルな視点からは、例えば2050年のゼロカーボン社会の実現の先導役が地域に期待されている。脱炭素先行地域を全国に100か所ほど指定しそのドミノ倒しによりボトムアップで2050年のゼロカーボン社会を実現していくという。

ローカルな視点では、地域における少子高齢化と人口減少が進行し、商店街や農林水産業等の地域産業の衰退、行財政の逼迫(ひっばく)と地域維持の困難化の問題が深刻である。

また、脱炭素による緩和だけでは避けられない気候変動の影響は、脆弱(ぜいじゃく)化する地域において深刻であり、気候変動の適応策の強化も必要となってきている。

こうした中、グローバルとローカルの危機への同時解決となる賢い対策が期待されている。省エネルギーや再生可能エネルギーに対する投資の呼び込みによる地域経済の活性化、コンパクトシティによる気候変動の緩和と高齢者福祉の充実等である。

(あだち環境ゼミナール講演：白井信雄氏 法政大学教授)  
(金子 記)